



ふじだな



No.41

令和8年2月 10日
大阪市立野田小学校
校長 川辺 智久

「いのち・いじめについて考える週間」の取り組み ③

「校長室だより」7号、25号でお伝えしました通り、本校では、「いのち・いじめについて考える週間」を学期に1度設定し、全校朝会での校長講話や各学級での指導を通して、子どもたちや教職員の「いじめ防止」の意識を高め、「いじめは絶対に許されない行為であること」を学校全体で再認識する機会としています。また、「いじめ防止基本方針」のもと、定期的に学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見や実態把握に努めています。



3学期の「いのち・いじめについて考える週間」の初日、2月2日の全校朝会では、子どもたちが、いじめは「どんなことがあっても、してはいけないこと」と知るだけでなく、「自分はどうするか」「友だちの立場に立って考えるはどういうことか」を、一人一人が真剣に考える態度を育てたいと考え、話をしました。

今週は、3学期の「いのち・いじめについて考える週間」です。今日は、ある小学校の4年生が書いた、いじめについての作文を紹介します。

「クラスが変わってから、わたしはなかなか友だちの輪に入れず、休み時間は一人で本を読んで過ごしていました。そんなある日から、『また一人?』『暗いね』と言われるようになりました。はじめは聞こえないふりをしていましたが、だんだん言葉ははっきりし、道をふさがれたり、給食で『となり、いやや』と言われたりしました。『冗談やん』『遊びやって』と言われるたびに、こわくて何も言えませんでした。家に帰っても誰にも言えず、『わたしが気にしそうなんか』と考えながら、学校へ行くのがしんどくなっていました。

そんなある日の給食の時間、席を立たされそうになったとき、クラスのあいさんが『そこ、れいなの席やで』『いっしょに食べよ』と声をかけてくれました。あとであいさんは、『ずっと気になっていた。でも、言うのがこわかった』と話してくれました。

放課後、あいさんと一緒に先生に相談しました。先生は話を最後まで聞き、クラスの様子を見直してくれました。すぐに全部がよくなつたわけではありませんが、一人でいることは少なくなりました。

今、思うことがあります。気づいてくれる人が一人いるだけで、気もちは少し軽くなるということです。もしクラスに困っている人がいたら、見て見ぬふりをせず、声をかけたいです。あのときの、あいさんのように。」

野田小学校のみなさんには、いじめをなくすために「2つの勇気」を大切にしてほしいと思います。1つは、いじめに「ストップをかける勇気」。もう一つは、つらいときや友だちが困っているときに「相談する勇気」です。一人一人が「いじめをぜったいに許さない」という気持ちを持ち、みんなが安心して過ごせる野田小学校を、力を合わせてつくっていきましょう。

朝会の終わりに、「話を聞いて思ったことや、考えたことを聞かせてほしい」と呼びかけると、たくさんの子どもたちが講話の感想を書き、校長室前のポストに投函しました。今回は、特に2年生の子どもたちから、多くの感想が届いていました。

朝会での講話を通して、子どもたちがどのようなことを感じ、考えたのか、いくつか紹介します。

(※裏面に続く)

※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。

(※表面より)

いじめについて かんがえたこと

ちようかいの はなしを きて、おもったことや かんがえたことを こうちようせんせいに おしえてください。
わたくしは、人の子がいいからどうしてかのいじめ
にあそばれてあげよと思ひました。

いじめについて かんがえたこと

ちようかいの はなしを きて、おもったことや かんがえたことを こうちようせんせいに おしえてください。
自分もしいじわるやつくえをよけられたり
されたりがとてもいいやな気持ちになる
からひとかされてから自分もされたら
いいからほかのひともいじやがり
自分はいじないし、友だちがされたらねぎけ
てあげる。

いじめについて かんがえたこと

ちようかいの はなしを きて、おもったことや かんがえたことを こうちようせんせいに おしえてください。
かっこつにもりきたくなくなるし
くらむとほつりゅうきもない
から友をかけてあげるのか
一乗。

いじめについて かんがえたこと

おはなしや しを きて、おもったこと かんがえたことを こうちようせんせいに おしえてください。
こうちよう先生のいじめのお話をきいてもしたれ
がちかくの人がいじめられたあたしは
やめえやめえとやめたいいじめれるなよおも
げざわたしは、やめえからいじめやめえと
はさりゅう。

いじめについて かんがえたこと

ちようかいの はなしを きて、おもったことや かんがえたことを こうちようせんせいに おしえてください。
わたくしはいじめをするのはよくないと思いました
などなら自分がされたらいいなことを人にしたら
あたしはいつもはでもそしたらかがりです、みんな
でかがりよくいじめはでもそしたらかがりです、みんな
自分がいいことをしたら自分はいいことが分かってく
るがいいことをしたほうかがりと思いまつ
るがり考えた方がいいと思った。

いじめについて かんがえたこと

ちようかいの はなしを きて、おもったことや かんがえたことを こうちようせんせいに おしえてください。
朝会のお話を聞いて、いじめは軽く行なってはダメだ
そのいじめられた人がどのような気持ちで、学校生を
をどのよう過ごしているのかをいじめている人は
気持ち
うがり考えた方がいいと思った。

道徳や学級活動などの時間に、「いじめ」や「友達関係」についてみんなで考えたクラスもたくさんありました。

6年生の学級では、道徳教材「わたしのせいじゃない」を使った授業を行いました。「いじめのような場面を見たとき、自分はどんな気持ちになるのか」を問い、子どもたちは「見ていていやな気持ちになる」「人がいやなことをされいたら、なんとか止めたい」「止めたいけれど、動けないかも知れない」「いやなことがあったらその場から逃げたらよい」など、正直な思いを出し合いました。また、見てているだけで本当に関係がないのかについても、友だちの考えを聞きながら深く考える姿が見られました。自分の気持ちに目を向け、「自分にできること」を考えようとする姿が印象的でした。



1年生の学級では、道徳教材「やめろよ」を使った学習を行いました。学校の帰り道、「ほんた」たちが友だちの「ぴょんこ」に意地悪をしている「こんきち」に会います。注意したいと思いながらも迷いますが、泣いている「ぴょんこ」を見て、「ほんた」は勇気を出して「やめろよ」と声をかけるといったお話です。授業では、「ほんた」の気持ちについて、「どうして言えなかったのか」「『やめろよ』と言うとき、どんな気持ちだったのか」について話し合いました。子どもたちは、「こわかったと思う」「ドキドキするけど、言ってよかったです」「言えたらすっきりした」という意見が出ました。この学習を通して、子どもたちは、困っている人がいたときには、勇気を出して声をかけることの大切さを学びました。

1年生なりに一生懸命考え、話し合ったこの時間が、これから的生活の中で、「ストップをかける勇気」につながっていくことを願っています。

本校では、いじめは「いつでも、どの子どもにも、どの学校においても起こりうる」という認識のもと、いじめの未然防止に力を入れて取り組んでいきます。そして、他人の心の痛みが分かる子どもを育て、思いやりあふれる学校づくりを進めたいと考えています。しかしながら、いじめの実態は学校だけでは十分に把握しきれない場合もあり、ご家庭でのご協力が必要です。お子さまの様子で気になることやご心配なことがありましたら、いつでも学校にお知らせください。

